

第1回全校授業研究会

令和5年6月19日

【研究主題】主体的に学び、考えを広げ、深め、表現する児童の育成

～自らの考えをもち、話し合いによって解決を目指す学級活動を核として～

話し合いのよさを実感し、成長を自覚するための評価の工夫

- ①自己評価の工夫
- ②教師による評価の工夫
- ③仲間の相互評価の工夫

<研究会について>

1. 授業提供

- ①日 時：令和5年6月19日(月) 第5校時
- ②学 級：2年1組
- ③授業者：
- ④議題名：学級活動（1）ア 学級や学校における諸問題の解決
『1年生が楽しめる遊びの工夫を考えよう』

2. 研究の視点

<2-② 話し合いを活発化させるための事前指導の工夫>

導入時に初回のドッジボール遊びの1年生の感想を動画で見ることは、議題につながり、話し合いを活発にさせるために有効であったか。また、話し合う内容を焦点化し、自分の立場を明らかにして話せるように話し方表を活用したり、グループ交流を位置付けたりすることは、一人一人が自分の思いを発表するのに有効であったか。

<3-②③ 自己・相互・教師による評価の工夫>

授業の始めに、どの話型を使ってみたいか目標をもち、話し方を意識させることは自己の成長を自覚するために有効であったか。また、少数派意見を教師が価値付けることで、他者の意見を受け止め、自身も安心して話せるようにしたり、教師が児童の発言を即時評価することで、話し方を身に付けたりできるようにすることは、付けたい力を適切に評価するために有効であったか。また、終末に「振り返りカード」を使って、自己評価と相互評価をできるようにすることは自己の成長を自覚するために有効であったか。

3. 授業研究会

- 1. 校長挨拶
- 1. 授業者の反省
- 1. 質疑応答
- 1. 討議
- 1. ご指導
- 1. 校長挨拶

第2学年学級活動指導案

日時 令和5年6月19日

場所 2年1組 教室

授業者

1 議題名

学級活動(1)ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

『1年生が楽しめる遊びの工夫を考えよう』

2 議題について

(1)児童の実態

本学級は、学級活動のリーダーになりたい児童が多く、話し合い活動には意欲的に参加ができる子が多い。学級に設置してある学級ポストの意見や児童のつぶやきから、「給食の残菜を減らすためにはどうしたらよいか。」や、「もくもく掃除を時間通りに始めるにはどうしたらよいか。」など、日常における諸問題を学級で話し合い、決まったことを目標として取り組み、振り返りをした経験もある。学級活動における進め方や話し方が少しずつ身に付いてきている。また、話し合う内容を精選することで、自分の考えをもてる児童が多くなってきた。しかし、一部では、伝えることに消極的な児童や、自分の考えに固執し仲間の考えを受け入れることが難しい児童もいる。そのため、より自分事として考えられるように、すべての児童が活動できる場を位置付けたり、自分たちで話し合っただけで決めたことが実現する喜びを感じさせたりすることで、話し合いのよさや仲間と協働するよさに気付かせていきたい。

(2)議題設定の理由

4月から約3か月の中で、1年生と仲良くなるために、体育の授業や朝の会を紹介する活動、学校探検を交流活動として行った。1年生も2年生も互いを知り合い、楽しく活動をすることができた。初めて下級生と活動することが楽しく思えたことから、児童から「また1年生と活動をしたい。」という意見があったため、20分休みに1年生と遊ぶ計画を立てることにした。

本時の「1年生が楽しめるドッジボールの工夫」を考える活動を通して、仲間の考えのよさを感じたり、合意形成を図っていくための手順や方法を身に付けさせたりするとともに、これからの自分たちの生活をよりよいものにしていきたいという意欲につなげていきたい。

3 研究主題との関連

研究内容2② 話し合い活動を活発化させるための指導の工夫…児童の思いをくみ上げるための工夫

導入時に初回のドッジボール遊びの1年生の感想を動画で見ることで、議題につなげる。また、話し合う内容を焦点化し、自分の立場を明らかにして話せるように話し方表を活用したり、グループ交流を位置付けたりすることで、一人一人が安心して自分の思いを話せるようにする。

研究内容3②③ 3評価の工夫

授業の始めに、どの話型を使ってみたいか確認することで、話し方を意識させ、自己評価できるようにする。また、少数派意見を教師が価値付けることで、他者の意見を受け止め、自身も安心して話せるようにしたり、教師が児童の発言を即時評価することで、話し方を身に付けることができるようにしたりする。また、終末に「振り返りカード」を使って話し合いのめあての振り返りができるようにする。「振り返りカード」には、自己評価と相互評価ができるようにする。

4 本時のねらい

1年生と交流遊びをするために意見を発表し、1年生がより楽しめる遊びの工夫を考えることができる。

5 本時の展開

話し合い活動	教師の指導・援助	評価基準と即時評価
<p>1 議題、提案理由を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年生の感想のビデオを見る。 議題 <div style="border: 1px solid red; padding: 2px; display: inline-block;">1年生がもっと楽しめるドッジボールの工夫を考えよう</div> 話し合いのめあて <div style="border: 1px solid red; padding: 2px; display: inline-block;">賛成か反対かが分かるように話そう。</div> <p>2 「どんな工夫をすれば1年生がもっと楽しめるのか」について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆意見を発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ボールがあたってしまうと痛くて楽しむことができないから、やわらかいボールを使う。 1年生が楽しめるように、ボールを全部1年生に渡す。 2年生は1年生よりも力が強いから両手で投げる。 ルールが分かっていない1年生がいたら声をかける。 2年生は1年生よりもボールが速いから、優しく投げる。 外野に行くとかわいそうだから、1年生は外野に行かない。 ◆各班で焦点化した内容について話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">1年生が楽しめるためにはどのようなルールにしようか。</div> <ul style="list-style-type: none"> 1年生にもっと投げさせるために、ボールを譲るといい。 当たってもいたくないように、やわらかいボールをつかうといい。 当たっても痛くならないようにするために、1年生を狙うなら下の方を狙って投げるといい。 ルールが分かっていない1年生のために、気付いた人が優しく教えるといい。 ◆各班で話し合った内容を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> 1年生にとっては2年生のボールが怖いから、2年生がとったボールを全部譲った方がいいと思う。 とったボールを全部譲るのは楽しくない。 全部譲ったら1年生の学級遊びと変わらないから、少しは2年生も投げていい。 <p>3 決まったことを確認する。 工夫点について決まったことを司会が言う。</p> <p>4 振り返りカードを用いて自己評価と相互評価をする。 本時の話し合いのめあてを自分が達成できたか、班での話し合いの中で仲間はできていたかをプリントに記入する。</p> <p>5 仲間のよかった姿を発表する。</p> <p>6 ノート係からの振り返りを聞く。</p> <p>7 教師からの話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 次の交流遊びに向けて話し合いができていたか。 めあてを達成することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生と初めてドッジボールで遊んだときの1年生の感想を聞くことで、1年生の立場を理解できるようにする。 議題を提示し、「1年生が楽しめる」ことが目的であることを確認する。 司会の進め方で詰まるところがあれば、共に進行する。 自分の意見を相手に分かるように、話型を意識して伝えることだということを確認する。 意見の中にどんな理由があるのか分かりやすくするために、わけも含めて発表するよう児童に問い返す。 黒板係にマグネットを貼る位置を伝えながら、カードを使うなどし、全員が見やすい板書にする。 全員に発表者の意見が伝わらない場合は、聞き返しをする。 本当にこのルールで楽しいのか切り換えすことで、より深く考えられるようにする。 発言した子を板書に位置付けることで、一人一人の発言を大切にす。 出てきた意見から、児童が遊びの中で行うもの、教師が準備しておくもの、遊ぶ日までにしておくことなどに分け、遊びの中で2年生ができる工夫について、内容を焦点化して話し合う。 ノート係から仲間のすてきな姿を紹介させ、子ども同士での価値付けをする。 話し合って決まったことをもとに、次時への見通しをもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いのめあてを意識して発表できた児童を価値付ける。 話型を意識して自分の考えを伝えている児童を価値付ける。 仲間の考えのよさを認めながら、全員が楽しめる工夫を考えている児童を価値付ける。 相手の考えのよさを認めた発言をしていた児童や、仲間の意見を取り入れた発言をしていた児童を価値付ける。

がっきゅうかつどう 名まえ()

1年生とあそんでみて

① よかったこと

--

② よくなかったこと

--

③ 😊になるためには、どんなくふうをすればいいのか

--

ふりかえり

① 「わけは・・・」といえた。	◎・○・△
② 「○○さんにさんせい(はんたい・つけたし)で、・・・」といえた。	◎・○・△
さん	
さん	

ふりかえり

① 「わけは・・・」といえた。	◎・○・△
③ 「〇〇さんにさんせい(はんたい・つけたし)で、・・・」といえた。	◎・○・△
さん	
さん	

ふりかえり

① 「わけは・・・」といえた。	◎・○・△
④ 「〇〇さんにさんせい(はんたい・つけたし)で、・・・」といえた。	◎・○・△
さん	
さん	

ふりかえり

① 「わけは・・・」といえた。	◎・○・△
⑤ 「〇〇さんにさんせい(はんたい・つけたし)で、・・・」といえた。	◎・○・△
さん	
さん	